

ひばり

佐賀県のハス田 直置き防鳥網に転換

茨城県のハス田では未だに宙吊りの野鳥がぶら下がっている防鳥網が幅を利かせています。しかし、九州・佐賀県のハス田では昨年末までに野鳥に優しい直置き防鳥網に換わったと、メールで速報して下さったのは、宮原明幸佐賀県支部長（写真左）。元旦には「食害、死骸激減」の見出しで佐賀新聞に掲載されました。

佐賀県白石町の干拓地の一画には茨城県同様、水圧でレンコンを収穫するハス田が、広がっています。秋にはシギチドリ、冬にはカモ類やクロツラヘラサギが飛来しますので、レンコンの食害防止に、網目の細かい防鳥網を茨城の天井網のように張っていたため、クロツラヘラサギだけでなく、ツグミやジョウビタキまで死

にました。

11月8日、野鳥誌9・10合併号を県に持参し、地元役場のハス田担当者をご紹介頂き、11月22日、改めて役場に出向き、連載全掲載号と直置き防鳥網の使用事例と利用効果を書類で説明されました。担当職員が若い動物好きの女性だったことも幸いし、和やかな話合いの場だったようです。12月20日過ぎに、再度の挨拶に伺い、27日にハス田へ行ったところ、要望通りの網が一面に張られているので、とても驚いたそうです。

地元農政が仲立ちになって初めて、農業と野鳥の共生が実現することを示す代表例がまたひとつ増えました。



全国の主流は 直置き防鳥網



写真は、広島県東広島市田口のハス田の収穫直前の風景です。収穫1週間前くらいにハス田の水を抜き、乾燥してから、写真右の重機（レンボリー）で表土をさらった後、潮干狩りに使う熊手に似たカイカキと呼ばれる鍬でキズをつけないよう、慎重に掘り取ります。中腰の作業は、重労働です。

水を抜くので、収穫中のハス田にカモの入る懸念はほぼありませんが、それでも念には念を入れて直置き防鳥網を張っています。

効果薄 ネットを換えても同じ構造なら



茨城県のハス田でも、網目の細かい防鳥網が普及し始めています。しかし、一部では、高さ50cmほどの杭を畦の周りに短い間隔で立て、網を宙に浮かす田圃があります。しかし、地面と網の隙間からコガモなどが出入し、防鳥効果がなく、野鳥の事故死もなくなりません(写真)。

野鳥は空からハス田に下りると考え、今も羅網死が絶えない天井網と同様な張り方ですが、野鳥にも足があるので、歩いて入れます。

レンコン栽培は、稲作に比べ、設備投資が少なく、肥料や農薬の投下も少なく済み、生産性の高い作物と言われています。安い防鳥網を直置きすることで、資本投下を最低限に抑えることができます。食害も死骸も減ります。

全国・海外からの署名 4985筆

昨年11月のJBFから始め、『野鳥』誌12月号に折込んで本格化したハス田の防鳥網に関する署名集めは、1月16日現在、4985筆になりました。署名の多い都道府県をベストテンで並べると、地元茨城はさておき、茨城レンコ

| No | 都道府県名 | 署名数 |
|----|-------|------|
| 1 | 茨城 | 1242 |
| 2 | 東京 | 808 |
| 3 | 千葉 | 498 |
| 4 | 埼玉 | 329 |
| 5 | 神奈川 | 286 |
| 6 | 高知 | 174 |
| 6 | 北海道 | 174 |
| 8 | 大阪 | 151 |
| 9 | 香川 | 125 |
| 10 | 愛知 | 75 |

ンの大消費地である首都圏が上位を占めています。署名集めに熱心なのは、台所を預かる女性が多く、署名を頂く際には、茨城のハス田で起きている事を説明しますので、消費者の関心は、署名数以上に高いと言えるでしょう。

署名を送って下さい 2月末まで

県農政部局への年始回りをしました。連載中の『野鳥』を送っているため、本会の主張が正しく理解されている印象でした。このため、防鳥網の効果的な使用をめぐる会議が持たれる雰囲気も醸成されつつあります。それを後押しするのが、声なき声を伝える署名です。

現在、1日平均120筆が届いています。このペースだと、〆切の2月末に目標1万筆にはわずかに届かないかもしれません。みなさんのお名前だけでも結構ですが、出来るだけ多くの署名を下記宛先へ送って下さい。

ひばり

号外

2019年1月20日発行
定価 300円

発行人 池野進
事務所 水戸市袴塚1-4-10 鈴木ビル2F
郵便番号 310-0055
TEL&FAX 029-224-6210
郵便振替 00380-1-4105
印刷 (有) 寺門印刷
<http://www.wbsj-ibaraki.jp>